

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～ 全国学力・学習状況調査の結果報告 ～

令和4年10月21日

川越町教育委員会

川越町立川越中学校

本年5月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越町教育委員会では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



1. 学力・学習状況調査結果

(1) 学力調査の結果

□全体の傾向・・・正答率が低い生徒が少なく、中位よりやや上位の生徒が多い。

国語：正答率が低い生徒は少なく、全体的に正答率が高い。

数学：正答率中位からやや上位の生徒が多い。

理科：正答率中位からやや上位の生徒が多い。

	強みと弱み（強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」）
国語	◎表現の技法について理解できている生徒の割合が高い。 ◎行書の特徴を理解できている生徒の割合が高い。 ◎話の進め方のよさを理解できている。 ◇自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く力に課題がある。 ◇助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う力が少し弱い。 ◇事象や行為、心情を表す語句についての理解が少し弱い。

数学	◎箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる生徒の割合が高い。 ◎素因数分解ができる生徒の割合が高い。 ◎問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 ◇事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力に課題がある。 ◇結論が成り立つための前提を考え、説明する力に課題がある。
理科	◎物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できる生徒の割合が高い。 ◎骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できる生徒が多い。 ◎画像や観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できる生徒の割合が高い。 ◇静電気に関する知識及び技能を活用する力に課題がある。 ◇状態変化に関する知識及び技能を活用する力に課題がある。 ◇昆虫でないものと昆虫を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析し、根拠を記述する力に課題がある。

(2) 生徒質問紙による生活調査結果

① 学習時間帯（平日）

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）

・学習時間が1時間以上生徒の割合・・・・・・・・全国：69.5% 川越町：71.6%

*** 平日に1時間以上家庭学習の時間を確保している生徒は、70%程度となっている。**

② 計画的な家庭学習

Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む）

・（どちらかといえば）している生徒の割合・・ 全国：58.5% 川越町：72.4%

*** 70%以上の生徒が、自分で計画を立てて勉強している。**

② 読書習慣

Q：学校の授業以外に、普段（月～金曜日）1日あたりどのくらい読書をしますか。

・1日の読書が30分以上の生徒の割合・・・・・・・・全国：27.3% 川越町：29.3%

・読書を全くしない・・・・・・・・・・・・・・・・全国：39.0% 川越町：35.3%

***1日30分以上読書をしている生徒以上に、読書を全くしない生徒のほうが多くなっている。**

④ 基本的生活習慣

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

・起きている児童の割合・・・・・・・・・・全国：56.8% 川越町：53.4%

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

・寝ている児童の割合・・・・・・・・・・全国：37.0% 川越町：33.6%

Q：毎日、朝食を食べていますか。

・食べている児童の割合・・・・・・・・・・全国：79.9% 川越町：80.2%

***起床、就寝に関しては、やや不規則になっている生徒がいる。朝食は毎日食べている生徒が多い。**

⑤ 自尊感情

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・（どちらかといえば）あると答えた生徒の割合

・・・全国：78.5% 川越町：84.5%

***自尊感情の高い生徒は80%を超えているが、「自分には、よいところがある」と思っていない児童が15%程度いる。**

⑥ キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

・（どちらかといえば）持っている生徒の割合・・全国：67.3% 川越町：59.5%

***将来の夢や目標を持っている生徒の割合は、60%程度となっており、40%程度の生徒は夢や目標を持てていない。**

⑦ スマートフォンやコンピュータの使い方

Q：携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

・（だいたい）守っている生徒の割合・・・・・・・・全国：69.5% 川越町：67.6%

***約70%の子どもは家の人との約束を守れている。**

⑧ 主体的・対話的で深い学びについて

Q：今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

・（どちらかといえば）取り組んでいた生徒の割合

・・・全国：79.2% 川越町：83.6%

Q：今までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。

・（どちらかといえば）工夫して発表していた生徒の割合

・・・全国：63.3% 川越町：57.7%

Q：児童・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

・（どちらかといえば）できていると回答した生徒の割合

・・・全国：78.7% 川越町：81.9%

***主体的に学習しようとする生徒は80%以上となっており、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできている。しかし、自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表することは苦手である。**

(4) 学校質問紙の結果からみえる生徒の姿

① 【言語活動の充実】

自分の考えを深め、表現する力を育成するために「話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」「話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いに対して、本校では肯定的な回答をしています。また、「授業において、児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」という問いに対しても肯定的な回答をしています。指導者が学習指導要領に示された子ども達につけるべき力を意識したうえで、ねらいを持って意図的に授業の中で話し合い活動等に取り組むようにしています。

今後も子ども達に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むために各教科等の中で、ねらいをもった話し合い活動等を進めていく必要があるととらえています。

② 【主体的・対話的で深い学び】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向けて、「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という問いに対して、本校では、肯定的な回答をしています。また「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」という問いに対しても肯定的な回答をしています。学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善を進めていく必要があると考えています。また、児童生徒質問紙にある「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という問いに対しては86.2%の生徒が肯定的な回答をしており、子どもたち自身が、授業の中で、「何を学ぶか」が明確になっており、授業のふりかえりをとおして、次の学習の意欲につなげているのだと考えられます。今後も川越町が大切にしている「めあてとふりかえりのある授業」を実践し、子ども達が「何を学ぶのか」という学習の目的意識をはっきり持ったうえで、授業に臨み、「どのように学ぶのか」を意識させた授業改善を進めていく必要があると考えています。

③ 【自己肯定感・自己有用感】

「これまでに学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」という問いに対して、本校は肯定的な回答をしています。一方、児童質問紙において「自分には、よいところがあると思いますか」という問いに84.5%の生徒が肯定的な回答をします。

学校教育活動において自尊感情の育成には、個々の生徒が学習の場面において「できた」「わかった」という満足感や充実感を持つことや、学校生活での仲間とのかかわりの中で、認められることや受け入れられることが重要な要素になると考えています。今後も個々の生徒と向き合いながら、良い点や頑張り、改善点を積極的に認めていく機会を意識的に持つことが大切だと考えています。

2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策

全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、生徒自身が「何ができるようになるか」を明確にしながら「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「どのように学ぶか」という学習課程を重視した授業改善を進める。



1. 「めあてとふりかえり」(目標の提示、振り返り活動)のある授業の徹底を図り、子どもたちが一時間の授業の中で「できた・わかった」と実感が持てる学習へつなげる。
2. 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
3. ICT 機器の効果的な活用を探り、授業改善を行う。
4. 自分の考えや必要な情報を整理して書く力をつけるための指導を行う。
5. 一人一人の学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 書くことの指導の充実

- ・書く活動において、生徒の興味関心に応じた題材を設定し、子どもたち自らが書こうとする気持ちを高める手立てを講じ、生徒が主体的に取り組めるように工夫する。
- ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。(国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく)
- ・文章を書く際には、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることを意識させ書く活動を行っていく。

2. 読む力を育成する指導の充実

- ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりするなど、読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

3. 自分の考えをまとめる活動の充実

- ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限やキーワードを提示するなどの条件を与えて書かせるようにする。
- ・自分の考えをまとめたものを友だちと共有する活動を取り入れ、自分の考えと比較し、新たな考えを知りながら、考えを深めていく活動を取り入れる。その手立てとして ICT 機器の効果的な活用を進めていく。
- ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。さらに、まとめたものを発表する活動につなげていく。

算数・数学

1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

2. わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・子どもたちの生活に沿った身近な課題を見出し、生徒が主体的に取り組める授業を展開していく。また、数学の時間に学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。
- ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けた授業を取り入れる。
- ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。
- ・個々の子どもたちの強み・弱みを把握し、少人数による学習活動を進める。

3. 自分の考え方や求め方を説明する

- ・数学用語、数学的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
- ・ICT 機器を効果的に活用し、個々の生徒の考え方や求め方を交流したり、自分の考え方をまとめたりする。



1. 「体験」活動の充実

- ・日常生活や身近なことから、価値や疑問を見出し、自分で調べたり考えたりする活動を繰り返し行い探求意欲を高める。

2. 実体験を伴う観察・実験の充実

- ・生物や実験器具等を見たり、触れたりして本物を知る。また、観察・実験の充実を図り、教科書からだけではなく、体験を通して知識・技能を高めていく。さらに、観察・実験をするだけでなく、予想や仮説を設定し、観察・実験後に検証する。また、その結果からさらに考え合う活動を設定する。仲間の考えを聞き、自分の考えをより妥当な考えに改善するための時間を確保する。

3. 複数の情報を関連付けながら、分析・考察させる活動の充実

- ・複数の情報を比較させ、共通点や相違点を見つける場面を設定する。

3. 町教育委員会による手立て

(1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的・基本的な力の向上を目指します。

(2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員及びA L Tの配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人一人の子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

(3) 学力向上推進委員会の開催

川越町学力向上推進委員会において、各校の学力向上に向けた取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

(4) 校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事、学力向上アドバイザーが各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を進めます。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

(5) ICT 機器を効果的に活用した授業の推進

授業において視覚的効果を高めるために、大型提示装置を活用して教材を提示したり、子どもたち同士が意見や考え方を交流しあう場面においてタブレット端末を活用したりして、主体的・対話的な授業の実現を目指します。また、ICT 機器の研修会等の校内研修への指導・支援を進めます。

(6) 家庭学習習慣及び読書活動の推進

各家庭での TV 視聴やゲームをする時間を振り返り、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、家庭学習の定着に向けた取組を進めていきます。また、「読書旅行」や「家庭読書の日」の取り組みを推進し、小学校低学年から本に触れ合う機会を増やし、語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成

2022年4月に改定しました川越町教育基本方針で示した通り、川越町は【『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成】を基本方針としています。「知」知識・技能、「情」情操、「意」意思の3つがバランスよく調和することが、子どもたちが「社会で生きていく力」となります。『豊かな心』を培うために、「非認知能力を高めること」「個性を大切にすること」「相手の個性を尊重すること」を大切に、すべての教育活動を行っていきます。

4. 川越中学校の取り組み

(1) 「聴き合い学び合う」授業 「学びをあきらめない」授業

本校で大切にしている人権学習の基盤に立ち、「仲間づくり」を柱とした様々な「学びの場」において、教師の意図した学び合う機会を大切にした取り組みを進めています。授業における学び合う機会を効果的に仕組むことにより、日々の授業改善を図っています。「学び合う授業」を通して、お互いを支え高め合う仲間づくりを大切にした授業づくりを行い、「聴くこと」の育成につなげます。また、生徒たちの関わり合いの中から一人でも多く「わかった」「できた」と思える授業づくりを行います。それとともに、聴く力・コミュニケーション能力の育成を期し、生徒個々の資質を高めます。そのような授業づくりから、一人一人が大切にされ、「学びをあきらめない」授業へとつなげていきます。

(2) 「書く」「綴る」「つなぐ」「かかわる」「語る」取り組み

日常生活や授業の内容について自分の思いを書く活動を通して、自分を見つめなおしたり、自分の気持ちを整理する取り組みを行います。自分の思いを書くことによって、学級通信、学年通信等でその言葉を綴り、つなぐ。そして、語る。その取り組みを通して、生徒間の相互理解を深め、生徒同士がかかわり、つながることで自己肯定感を高めるとともに、誰もが安心して自分の思いを表現できる居場所のある学級・学年・学校をつくります。そして、誰もが安心して学び合いができる学習環境をつくります。

(3) ICT機器の効果的な活用 「学びをとめない（学びの保障）」ためのICT機器の活用

一人一台のタブレット端末やプロジェクター等のICT機器を効果的に活用し、視覚的に理解したり、学び合いの中から思考が深まったりする活動を行います。また、ICT機器を利用して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた効果的利用の推進を図っていきます。コロナ禍においても、これからの新しい学びを継続するうえにおいても「一人一人の学びを止めない（学びの保障）」ため、ICT機器を活用した「オンライン授業」を可能な範囲で継続していきます。

(4) 学習の理解と定着の要として、「めあて」と「振り返り」を大切にした授業づくり

学習の見通しを立てたり、学習したことを授業内で振り返る活動を計画的に取り入れるため、「めあて（目標の提示）」を明確にし、一時間の授業の中で何が目標かを確認できる授業を大切にします。また、「振り返り（振り返り活動）」を行い、一時間の授業の中で「できた・わかった」と実感が持てる学習へつなげます。

5. 家庭・地域へのお願い

(1) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、頑張りの過程をほめる、励ますことです。子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

《生徒》 ・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。

・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。

・机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。

《保護者》

・テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、各家庭でルールをつくる。

例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。

夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。 など

・カレンダーに「○」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

(2) テレビやゲームを楽しむ時間のルール作りを子どもと一緒に考える・・・思いやりの心につながる

家庭内のルールを子どもたちと一緒に会話をしながら作っていただきたいと思います。家族同士の触れ合いはコミュニケーション能力の向上にもつながります。また、ルールづくりは子どもの自制心・誠実さ・忍耐強さにつながることはもちろんですが、思いやりや共感力を育みます。

(3) ほめる・認める・・・自己肯定感・自己有用感を高める

今回の児童生徒質問紙の結果からも、「15%から20%程度の生徒が、じぶんには良い所があると感じられない」という状況がみられました。子ども達は個々によって得意なことや苦手なことは様々です。「家族で決めた約束が守れた」「苦手なことにも挑戦した」など、子どもが何かを継続して行ったときや、前向きに挑戦した、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等だけに注目するのではなく、過程を大切に、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

● 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない

● よかったことを具体的にほめる

● 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる

● その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。子どもが「なぜ、叱られたのか」を納得できるような叱り方をして、目指すべき良き行動がとれるように導いていきましょう。

(4) 親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にする・・・家庭読書習慣

読書活動は、使う言葉の幅が広がり表現力が向上し、より豊かな会話につながります。いろいろな考え方に接したり、想像力を膨らませたりすることにより、共感力や発想力が生まれます。「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。

